

【第5回】講義概要紹介 11月11日(火)

■ 講師

【略歴】

昭和 52 年	名古屋大学農学研究科博士課程修了
昭和 54 年	名古屋大学農学部助手
平成 3 年	香川大学農学部教授
平成 21 年	香川大学農学部長
平成 25 年	香川大学理事・副学長
平成 27 年	香川大学名誉教授・特命教授
令和 2 年	一般社団法人希少糖普及協会代表理事会長

【講師紹介】

希少糖を用いた食品開発研究に 20 年以上にわたって取り組み、産学官連携事業において民間企業における希少糖活用の支援を行ってきた。

また、国際希少糖学会の事務局長として希少糖の世界への発信や希少糖研究者の育成に努めた。現在は(一社)希少糖普及協会の代表理事会長として希少糖の国内外に向けての普及活動を行っている。



早川 茂

(はやかわ しげる)

一般社団法人希少糖普及協会
代表理事会長

【一般社団法人希少糖普及協会について】

希少糖の利用を普及、発展させることによって、会員の事業発展に資するとともに、希少糖関連技術の進歩および人類の健康と社会の発展に寄与することを目的として、情報発信や研究支援、利用技術の向上に貢献する活動を行っています。

■ 講義概要

希少糖の産学官連携事業から商業展開への道のり

自然界に微量しかない単糖である希少糖を生産する酵素を土壌中の微生物から単離し、希少糖の大量生産を目指す産学官連携事業が、香川大学を中心にして 20 数年前に香川県で立ち上がった。

研究開発と事業化は困難の連続であったが、「知的クラスター創成事業」や「都市エリア事業」などいくつかの産学官連携事業を通して、アルロースの大量生産が可能となり、民間企業での活用が始められた。



平成 13 年に設立した国際希少糖学会では、香川県において国際シンポジウムを開催し、希少糖研究者の育成ならびに香川県民や企業への希少糖の広報活動を行ってきた。このように産学官連携事業により、アルロースの商品利用価値の科学的根拠を明らかにするとともに、アルロース等を利用した商品開発がなされてきている。産学官連携での希少糖の事業化について、商業展開を中心として講義を進めます。